

後期高齢者医療制度の展望

— 歯科はいかに関わり得るか —

日本歯科総合研究機構
恒石美登里

2008.03.13



本日の発表の流れ

- ① 日本歯科総合研究機構とは？
- ② 後期高齢者医療制度を知るために！
- ③ 平成20年度診療報酬改定について
- ④ 在宅歯科医療推進(ここ1年間の変遷)
- ⑤ 歯科はいかに関わり得るか？
歯科からできること！

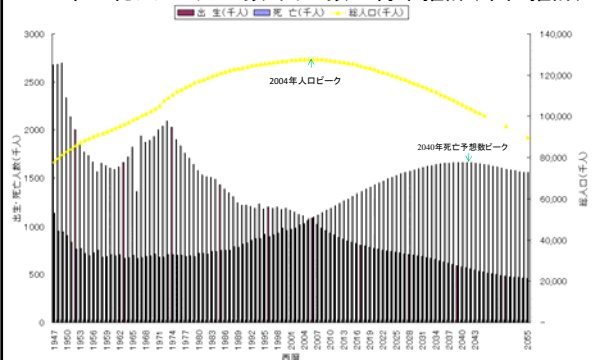


日本歯科医師会会長 大久保 満男先生から

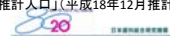
- ・健康寿命の延伸
- ・生きる力を支える歯科医療
(有病者・要介護者の生活を守る)
- ・昨日食べたものがおいしかったと言って
亡くなれるような支援
(ターミナル・デンティストリー)



日本の総人口・死亡数・出生数の将来推計(中位推計)

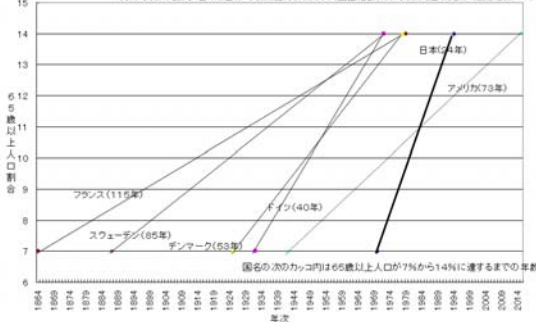


出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)



主要国の高齢化社会(7%)から高齢社会(14%)への速度

資料: 人口の動向 日本と世界 人口統計資料2006(国立社会保障・人口問題研究所:編纂)表2-19

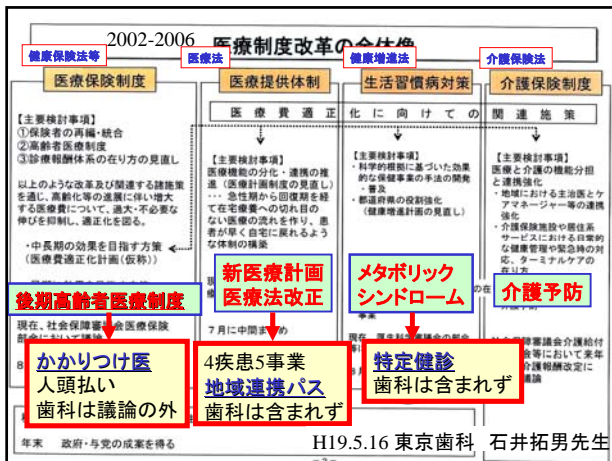


後期高齢者医療制度の重要ポイント

平成20年4月から始まります。

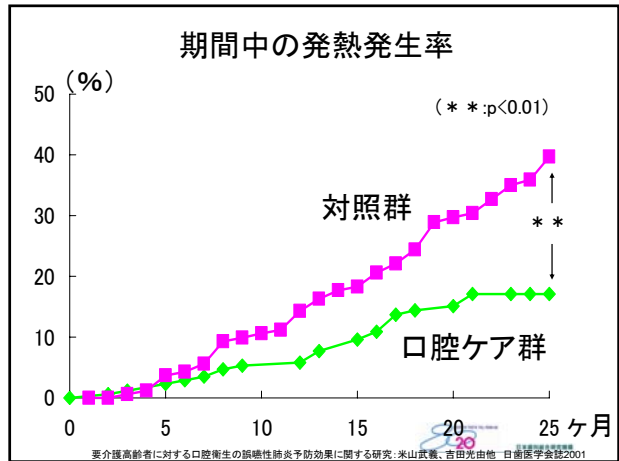
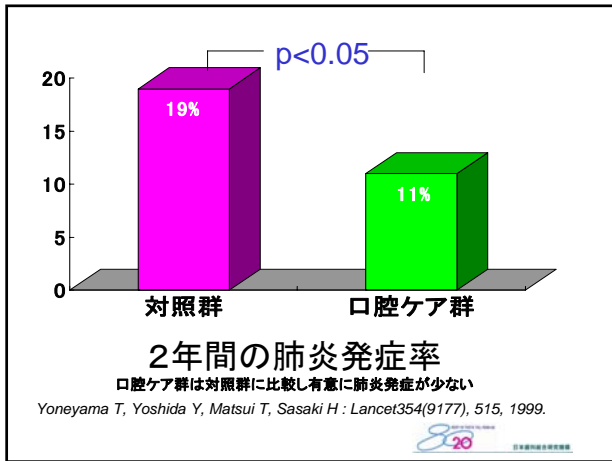
- ・75歳以上および65歳以上の一定以上の障害のある方が、後期高齢者医療の被保険者になります。
 - ・70~74歳は原則2割・・・以前は1割負担
 - ・75歳以上は原則1割
 - ※現役並みの所得を有する者は3割
- ・老人保健制度と同様の医療給付が受けられます。
- ・被保険者から保険料を徴収します(原則年金天引き)





「後期高齢者医療の在り方に関する特別部会」
 有識者ヒヤリング 平成18年11月20日 米山先生

- ・ 歯科医療は、「食」や「会話」という人間の生活の根幹に関わる医療、すなわち「生きる力を支援する生活の医療」として位置づけられる。
- ・ 口腔ケアの目的として①感染の予防、②口腔機能の維持回復、③全身の健康の維持回復及び、④社会性の回復が挙げられる。
- ・ 後期高齢者の健康寿命を延長するためには、他科との医療連携を踏まえた口腔ケア（管理）を含む歯科的介入が必要
- ・ 誤嚥性肺炎や低栄養の予防のためにも、口腔機能の向上及び義歯の装着・調整を含む維持管理などが必要である。
- ・ 後期高齢者の健康保持のためには、歯の喪失を予防することが重要であり、早い時期から虫歯や歯周病を管理する必要がある。



後期高齢者医療の在り方に関する基本的考え方(案)―抜粋―
 社会保障審議会後期高齢者医療の在り方に関する特別部会
 平成19年6月18日

在宅

4 後期高齢者にふさわしい医療の体系
 (2) 在宅(居住系施設を含む)を重視した医療

- ・ 訪問診療、訪問看護等、在宅医療の提供
- ・ 複数疾患を抱える後期高齢者を総合的に診る医師
- ・ 医療機関の機能特性に応じた地域における医療連携

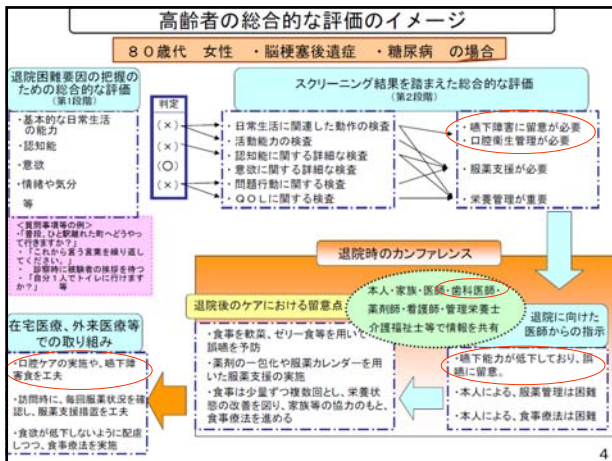
地域での療養生活を安心して送ることができるようにするためには、信頼感の確保された在宅医療が必要であり、そのためには、患者についての情報を共有しつつ患者を中心に、地域における医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療関係者が相互に協力して、チームとして対応する必要がある。

この場合、中心となって医療関係者の連携を調整する役割を担う医師が置かれる仕組みが重要となる。これを実現するためには、後期高齢者を総合的に診る医師が必要である。

また、在宅医療を後方支援する医療機関との連携を進めていく必要がある。さらに、**全身状態の維持にも重要である継続的な口腔管理を促すこと**や、重複投薬・相互作用の発生防止を目的とした同一の薬剤による使用医薬品の管理、在宅での療養を支える訪問看護の取組等を進めていく必要がある。

通院医療についても、在宅医療と同様に、後期高齢者を総合的に診る医師により提供されることが今後重要となる。

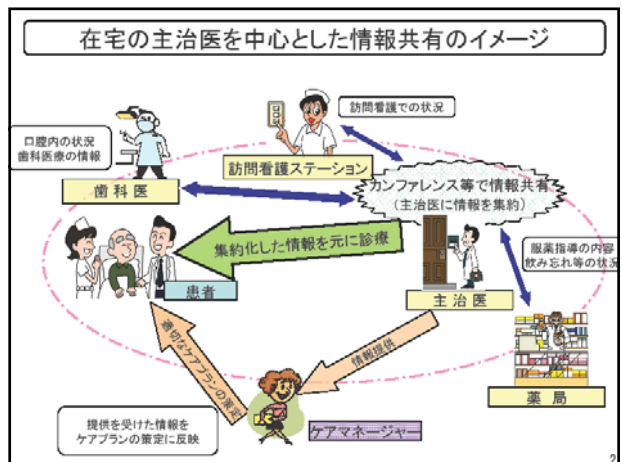
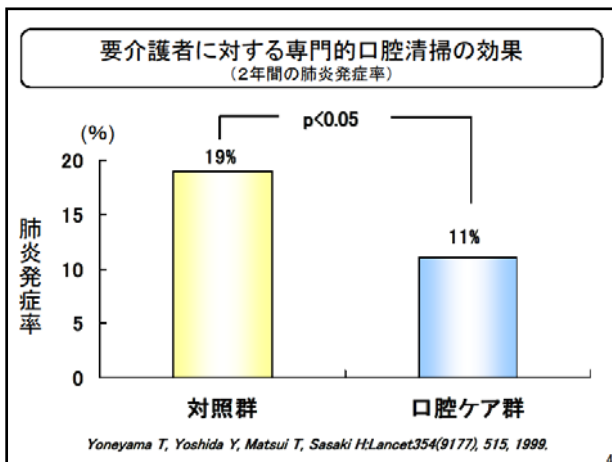
後期高齢者の入院医療について
 (参考資料)



中 医 協 誌 - 2
19.10.26

後期高齢者の在宅医療等について

(参考資料)



要介護者の口腔状態と歯科治療の必要性

在宅歯科医療における需要と供給体制との間に差がある。

- 要介護者368名(男性:139名・女性:229名 平均年齢81.0±8.1)に対する調査
- 日常生活自立度が低下するほど、現在歯数は減少傾向にある。
- 要介護度が高くなるほど、重度う蝕が多くなる傾向にあり、歯科治療の必要性も高くなる傾向であった。
- 義歯装着者は全体の77.2%で、その内、調整あるいは修理が必要なものが20.1%、新しい義歯を作製する必要があるものは38.0%
- 歯科治療の必要性については、89.4%のものが「何らかの歯科治療または専門的な口腔ケアが必要」である一方、実際に歯科受診を受診した者は26.9%で、歯科治療の必要性と実際の受診状況には大きな隔りがあった。

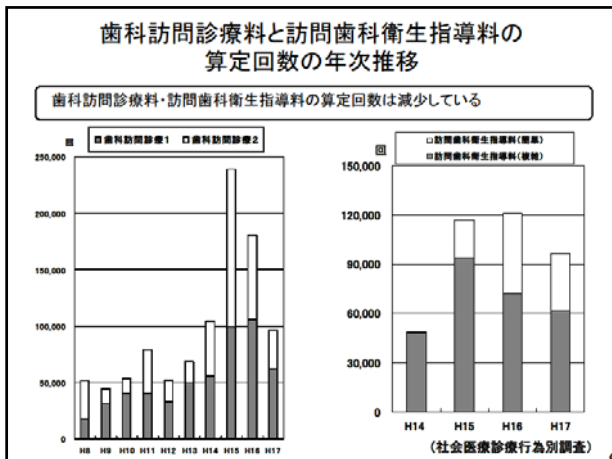
出典:厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)
情報ネットワークを活用した行政・歯科医療機関・病院等の連携による要介護者口腔保健強化システムの開発に関する研究

在宅歯科医療サービスの実施状況

在宅歯科医療サービスを実施している歯科医療機関は、全体の18%

	歯科診療所				
	施設数			施設数に対する割合(%)	
	平成17年(2005)	平成14年(2002)	増減率(%)	平成17年(2005)	平成14年(2002)
総 数	66 732	65 073	2.5	100.0	100.0
在宅サービスを実施	12 147	11 723	3.6	18.2	18.0
歯科訪問診療	11 898	11 444	4.0	17.8	17.6
訪問歯科衛生指導	3 308	3 401	△ 2.7	5.0	5.2
居宅療養管理指導	2 881	2 582	11.6	4.3	4.0
その他の在宅サービス	141	134	5.2	0.2	0.2

(平成17年:医療施設(静態・動態)調査・病院報告概況)



中医協
20.2.13

③平成20年度診療報酬改定における主要改定項目について



在宅歯科医療等の推進(後期高齢者医療を含む)

基本的な考え方

1. 在宅または社会福祉施設等における療養を歯科医療面から支援する歯科診療所の整備を図る。

具体的な内容

1. 後期高齢者の住宅又は社会福祉施設等における療養を歯科医療面から支援する歯科診療所を「在宅療養支援歯科診療所」と位置付け、その機能の評価を新設する。

新 在宅療養支援歯科診療所の新設

[施設基準]

- 1 所定の研修を受講した常勤の歯科医師が1名以上配置されていること
- 2 歯科衛生士が1名以上配置されていること
- 3 必要に応じて、患者・家族、在宅医療を担う医師、介護・福祉関係者等に情報提供できる体制を整えていること
- 4 在宅歯科診療に係る後方支援の機能を有する別の保険医療機関との連携体制が確保されていること

2. 後期高齢者は、生活の質にも影響を及ぼす歯科疾患の重症化や摂食・嚥下障害の発現等が顕著になる時期であることから、疾患の管理に併せて、口腔機能の評価及び管理を適切に行うことが強く求められており、後期高齢者の**口腔機能の評価**を新設する。

新 後期高齢者在宅療養口腔機能管理料 180点(月1回)

[算定要件]

1. 在宅療養支援歯科診療所に属する歯科医師が、在宅又は社会福祉施設等において療養を行っている通院困難な後期高齢者に対して歯科訪問診療を行った場合であって、患者の歯科疾患の状況及び口腔機能の評価の結果等を踏まえ、歯科疾患及び口腔機能の管理計画を作成し、当該患者又はその家族等に対して文書により提供した場合に算定する
2. 歯科疾患管理料は別に算定できない



3 退院時共同指導料の新設 退院時カンファレンスの評価

(1)退院後の在宅療養を担う保険医療機関と連携する歯科診療所の歯科医師又は歯科衛生士が、共同指導に参加した場合の評価を新設する

新 退院時共同指導料1

- 1 在宅療養支援歯科診療所の場合 600点
- 2 1以外 300点

(2)入院中の保険医療機関の保険医である歯科医師、看護師、歯科衛生士等が、入院中の患者に対して、患者の同意を得て、退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を、在宅療養を担う保険医療機関の医師、看護師等と共同して行った場合の評価を新設する。

新 退院時共同指導2 300点

4 在宅患者連携指導料の新設

歯科医師が、歯科訪問診療を行っている患者の使用する医療サービス及び福祉サービス等の情報について、在宅療養を担う医師、訪問看護ステーションの看護師及び保険調剤薬局の薬剤師等と共有し、その情報に基づいて**共同**で療養上必要な指導を行うことの評価を新設する。

新 在宅患者連携指導料 900点(月1回)



5 在宅患者緊急時カンファレンス料の新設

歯科訪問診療を実施している歯科医師が患者の病状の急変に伴い、関係する医療従事者と共同で在宅等に赴いてカンファレンスを行い、療養上必要な指導を共同で行うことの評価を新設する。

新 在宅患者緊急時カンファレンス 200点(月2回)



6 後期高齢者終末期相談支援料の新設

一般的に認められている医学的知見に基づき回復を見込むことが難しいと医師が判断した後期高齢者に対して、患者の同意を得て、医師からの依頼を受けた歯科医師が、医師又は看護師等と共同し、相談支援を行うことの評価を新設する。

新 後期高齢者終末期相談支援料 200点(1回に限る)



在宅歯科医療については
連携・共同(協働)・
カンファレンスがポイント!

もう1点は研修



④在宅歯科医療推進
(ここ1年間の変遷)

日本歯科医師会の活動から



在宅医療推進のための医科歯科連携 ワークショップの開催

- 平成19年2月18日
- 会場: 日本歯科医師会
- 日本歯科医師会と日本プライマリ・ケア学会との合同ワークショップ



医科歯科連携ワークショップからみえてきたこと

参加者(医師)からあがった
在宅歯科医療を進める上での問題点

1. 医師は咽頭部や舌には興味を示すが、その他のことはあまり関心がなく、よくわからない。
2. 歯科医師が訪問診療しているの知らない。
3. 伝聞・美談めいた話は聞いたことがあるが、頻度は少ない。
4. 歯科治療の効果を体験した医師はいないのでは?



日本歯科総合研究機構設立記念シンポジウム
 ~医療連携による新たな歯科保健医療を求めて~

平成19年8月2日(木)

1. 特別講演 (14:10~)

「国際情勢と日本の外交」
 齊藤 邦彦 氏 (元駐米大使)

2. パネルディスカッション (15:00~)

「医療連携の取り組みの現状と将来」
 コーディネーター: 石井 拓男 日本歯科総合研究機構研究部長

- 天本 宏 氏 (日本医師会常任理事)
- 前沢 政次 氏 (日本プライマリ・ケア学会会長)
- 黒岩 卓夫 氏 (在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク会長)
- 清野 裕 氏 (日本糖尿病協会理事長) **糖尿病協会との連携**
- 大久保 満男 氏 (日本歯科医師会会長)



在宅医療推進会議

経緯

在宅医療推進を目的として、国立長寿医療センターに、4つの作業部会が構成された。在宅療養支援診療所は現在12,000か所あると言われている。積極的に在宅医療を推進し、在宅看取りまで支える役割を全うしている在宅療養支援診療所を横につなぐ連絡会を組織し、現状を把握、課題を分析・検討して役割を担えるような提言を行う。

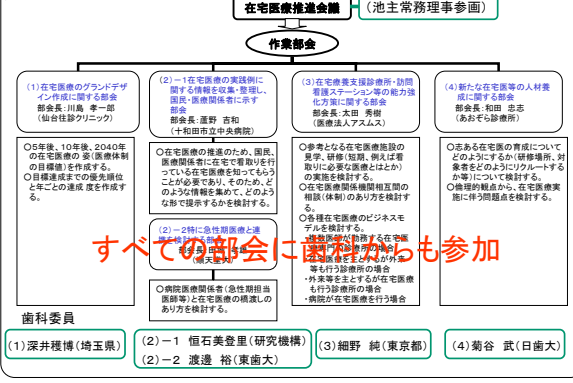
目的

在宅療養支援診療所の大きな役割は望めば誰もが在宅で看取りを含めた在宅療養を受けられるようになるための提言



国立長寿医療センターの在宅医療推進会議と作業部会

推進会議の下に、**看取りまで実行する**在宅医療を推進するための具体的な方策を策定するために、作業部会を設ける。

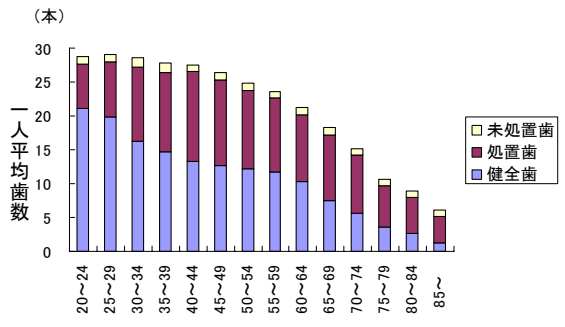


第1部会

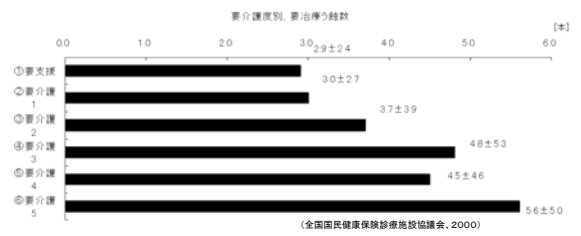
グランドデザインより

後期高齢者医療の現状

—在宅歯科医療のシュミレーション—

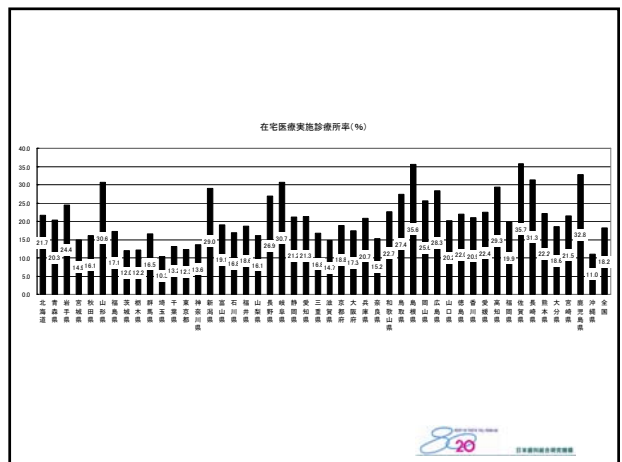
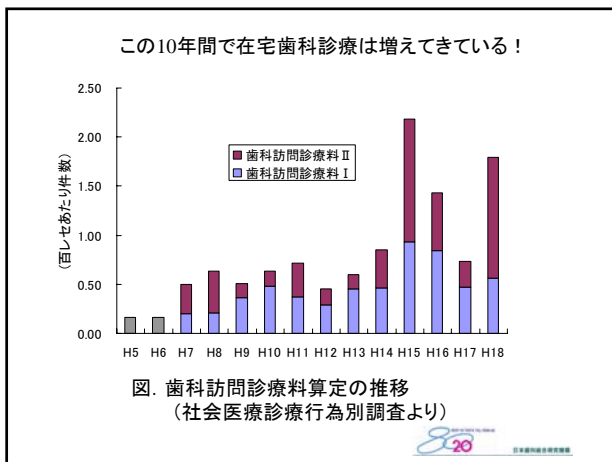
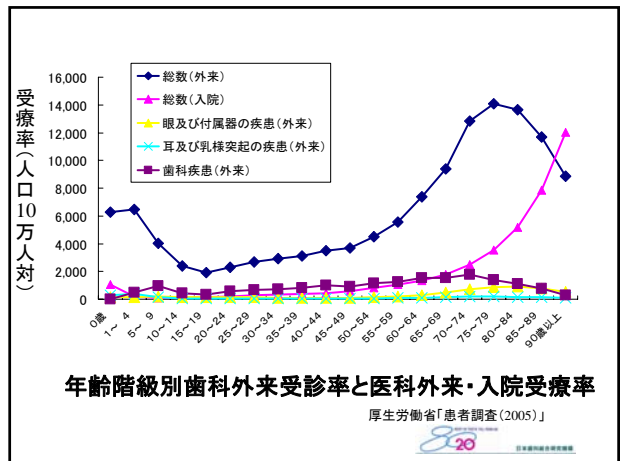
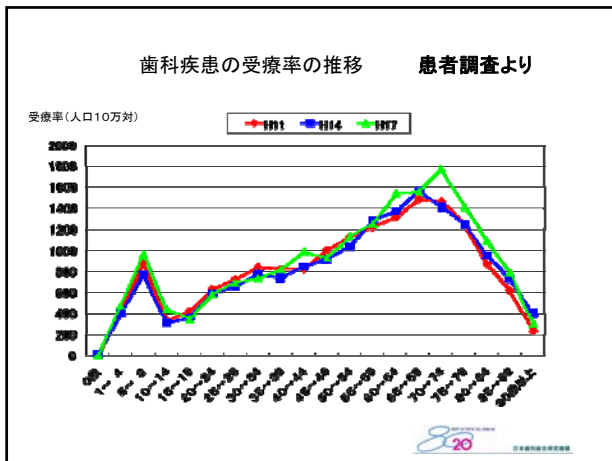


永久歯の状況
 (平成17年歯科疾患実態調査)



(全国国民健康保険診療施設協議会、2000)



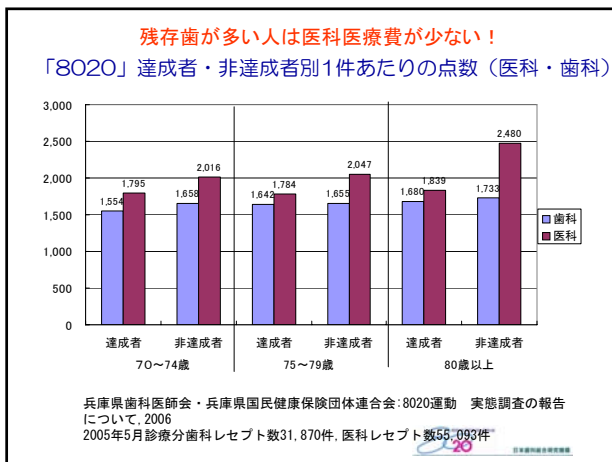
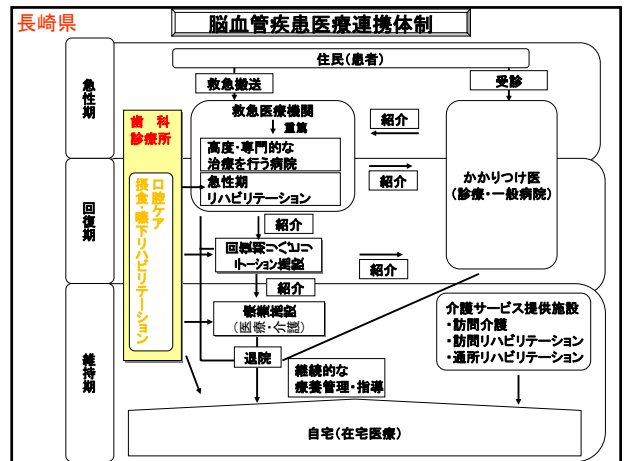
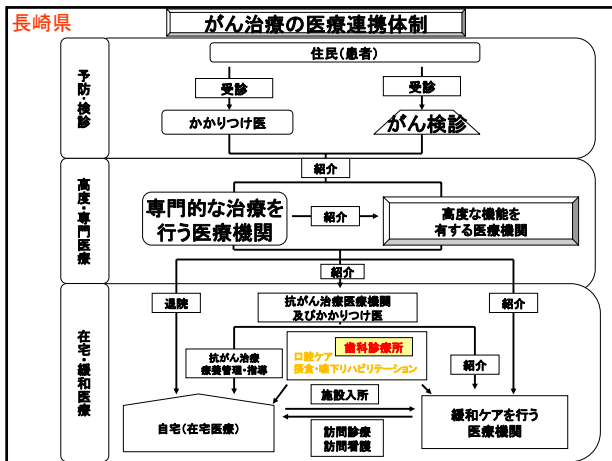


平成17年 国勢調査・人口動態調査・医療施設調査・介護保険事業報告

総人口	127,767,994
要介護者	4,323,332 (3.4%)
歯科診療所数	66,732
在宅医療実施歯科診療所	12,147 (18.2%)
訪問(患者+患者以外)	153,648 (要介護者の3.6%)
訪問歯科衛生指導	74,907 (要介護者の1.7%)
居宅療養管理指導	62,672 (要介護者の1.4%)
(歯科衛生士含む)	

需要の面から考えて全く充足していない！

- ### ⑤ 歯科はいかに関わり得るか？
- 解決のためのキーワード
1. **連携・協働の推進**(在宅チームの一員に！)
これまで歯科は歯科完結型
 2. **医療計画の実行**(他職種からオファーがくる！)
(4疾患5事業)
 3. **エビデンスの構築および情報公開**
 4. **高齢社会対応の医療器具・医療技術の開発**



2008.02.27 メディファックスより

舛添要一厚生労働相は26日の衆院予算委員会で、**歯科の定期健診**について「**予防をしっかりとすれば医療費全体の抑制につながる**」と述べ、労働安全衛生法で定める企業の健診に歯科検診を含めるなど、弾力的な制度運用を検討する考えを示した。

「**歯科健診による予防を徹底すれば、健康保険組合を持つ企業などの負担軽減にもつながる**」と述べ、制度以外にも歯科健診の定着に向けた施策を検討したいと、前原誠司氏(民主)の質問に対する答弁。